

データ透過モード（通信モード 2: 自動接続モード）

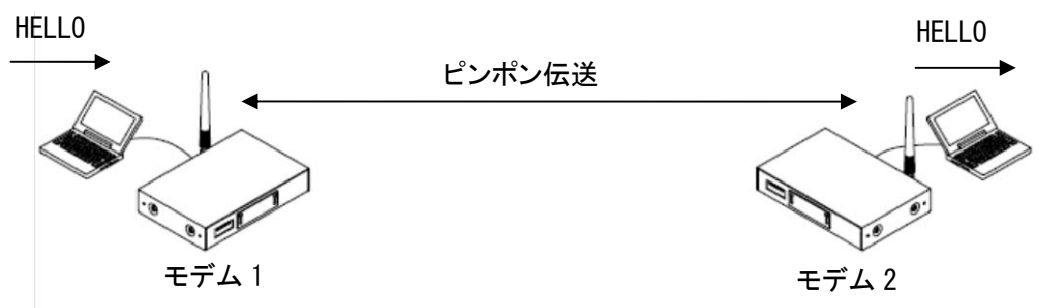
1. システム構成

送信するデータをフリーフォーマットで入力して、送信します。

設定はメモリレジスタで行い、1:1 通信のみ可能です。

RS232C のデータ線 (TxD)、制御線 (DTR, RTS, DCD) を監視し、信号レベルの変化を検出すると、電波の送出を開始して無線回線の接続を行います。

通信時間以外は、電波を送出したくない場合に適しています。



2. スイッチ設定

ディップスイッチは、SW No. 8 のみ ON、ロータリースイッチは、「0」にします。

3. レジスタ設定

パソコンと無線機を RS232C ストレートケーブルで接続して、Futaba Term などのターミナルソフトを使い、REG コマンドでレジスタを設定します。

【モデム 1】

REG00:00H	(アドレス 0)
REG01:F0H	
REG02:01H	(宛先アドレス 1)
REG03:F0H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:A3H	(周波数グループ:3 波モード、グループ番号 3)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:05H	(回線接続タイムアウト:5sec)
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:01H	(コマンド認識インターバル:0.1sec)
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:1DH	(データ透過モード、自動接続/切断モード、宛先アドレスチェックを行う)
REG19:40H	(ダイバシティ受信を行う)
REG20:07H	(RS232C:38400bps, 8bit, パリティなし 1stop bit)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	

【モデム 2】

REG00:01H	(アドレス 1)
REG01:F0H	
REG02:00H	(宛先アドレス 0)
REG03:F0H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:A3H	(親機同様)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:05H	(親機同様)
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:01H	(親機同様)
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:1DH	(親機同様)
REG19:40H	(親機同様)
REG20:07H	(親機同様)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	

《注意事項》

- レジスタを設定する前に、無線機を初期化することをお勧めします。
- 上記レジスタ以外に、全無線機の周波数バンドを合わせる必要があります。周波数バンドは **@FBD** コマンドで設定します。(プログラムバージョン 8.3 以降)
- レジスタ設定を反映させるには、**@RST** コマンド、又は電源再投入を行ってください。
- シリアル通信条件を変更した場合、PC ターミナルソフトのボーレート、パリティ、スタート/ストップビットを設定した値に合わせてください。
- 複数の周波数を使用するグループモード(ここでは 3 波)を使用する場合、再送回数は使用する周波数の 2 乗倍以上の回数にしてください。

4. 通信手順

2 台のモデムの電源を投入し、一方のモデムにデータを入力すると、無線の接続処理が開始され、接続が完了すると、LED の“C0”が緑点灯になり、通信が可能になります。

REG12 に設定された時間以上通信が行われない場合には、無線回線を切断します。

モデム 1 から、モデム 2 への通信

[モデム 1]> HELLO

[モデム 2]< HELLO

《注意事項》

- モデム 1、モデム 2 のどちらからの送信でも、無線回線の接続処理は行われます。
- LED は回線接続中のときは、C0 のみ緑点灯で、それ以外は赤点灯になります。データ入力時は、送信側の SD が緑点灯、受信側は RD が緑点灯して、送信/受信が終わると C0 以外赤点灯に戻ります。
- データを入力しても LED の C0 が赤点灯のままのときは、通信できません。
- コマンドヘッダは有効です。コマンドヘッダをデータとして送信する場合は、コマンド認識インターバル (REG15) を適切な値に設定してください。詳細は、取扱説明書をご参照ください。